① 源智の井戸（げんちのいど） 宮村町１丁目

四季を通じて水を汲む人の姿が絶えないこの井戸は、城下町が形成される前から飲用水として使われていた。井戸の所有者は中世後期以来この地に居を構えていた河辺氏で、同縫殿助の法号源智の名をとって“源智の井戸”と呼ばれるようになった。良質の水は早くから知られ、歴代の領主や藩主は不浄なき旨の制札を出して保護に努めるほどであった。江戸時代末期、天保 14 年（1843）に成稿された『善光寺道名所図会』には「当国第一の名水」と称賛され、明治 13 年（1880）の明治天皇御巡幸時にはこの井戸水が御膳水として用いられた。

この井戸がある宮村町１丁目の有志で「井戸を守る会」を結成し、年間を通じて清掃や環境整備に取り組んでいる。

② 瑞松寺（ずいしょうじ） 南源地

応永年間（1394 ～ 1428）は島立に草庵があり、小笠原長秀を開基とした。天正 18 年(1590)の石川康昌(数正）入城にあたり、その信仰により再興の許を得て、今の飯田町北端の辺に造営し改めて萬年山瑞松寺と称し、その後、宮村町２丁目に移転した。廃仏毀釈で廃寺となったが、明治 13 年（1880）南源地に再興し、現在に至る。

③ 全久院（ぜんきゅういん） 宮村町２丁目

開基は松本戸田家始祖・戸田康長。開山は克補契嶷和尚で元和 3 年（1617）の開創。明治４年（1871）巨海意龍和尚の時、藩主戸田光則が廃仏を断行して全久院跡へ開智小学校を建てた。その後、明治 10 年（1877）に安達達淳和尚が空き地になっていた瑞松寺跡に全久院を再建。松本札所六番として、十一面観世音菩薩が祀られている。

④ 龍興寺（りゅうこうじ） 北源地

江戸時代まで松本藩領にあった日蓮宗の４ヶ寺を、明治初年に統合して今日に伝えたのが龍興寺である。寺号を改称しているが、連綿とした法華経信仰と熱心な檀徒を持ち、500 年の歴史を継承する由緒の深い古刹である。

⑤ 乾瑞寺跡地（けんずいじあとち） 飯田町２丁目

慶安元年（1648）、松本藩主水野家２代水野忠職が養賢院（後、性宣院）の住持になっていた弟の龍天和尚（祖活）を招き、開基した臨済宗の寺。水野氏改易後も法門は存続したが、廃仏毀釈により廃寺となった。寛文 10 年（1670）に忠職の老母福寿院の遺骸を葬り、墓地のみ存続している。

町名碑 碑文

※碑の銘文のまま掲載

Ⓐ 宮村町（みやむらまち）
町人町・中町の枝町の一町名。南端には宮村大明神があり、信濃守護小笠原貞宗が井川に居館を構えた頃の暦応年間（一三三八～四二）に守護神として宮村の地に祀ったという伝承がある。地名の起こりもこの頃といわれる。江戸時代の初めに町割りが行われ、その後奉公人や職人などが多く集住した。

Ⓑ 小池町（こいけまち）
小池町は松本城下の枝町十町の一つで中町に属していた。慶長十八年（一六一三年）城主小笠原秀政が飯田より入部した際に南半分を奉公人衆の屋敷にした。その中に小池甚之丞という軍学兵法の達人がいたので、その名を取ったという説と、この辺りに小さい池があったことに由来するとの説がある。

Ⓒ 飯田町（いいだまち）
飯田町は松本城下枝町十町の一つで中町に属していた。慶長十八年（一六一三）に城主小笠原秀政が飯田より入部した際に、飯田から来た侍衆や奉公人職人を置いたのが由来であるという。享保年間には家数七十軒あり、主に鋳物師、紺屋、石屋、鍋屋などの職人が住んでいた。